



HEADLINE

- (1) 12月のマネートピックス
- (2) 今月の金利情報
- (3) コラム～★FPのひとりごと★～
世界一強い通貨 ※Mr.FP Professionals 代表 井畑敏氏
- (4) FPコバさんの編集後記

●マネートピックス

- ◇全米経済研究所、米経済の景気後退局面に入り宣言 (12月1日)
米景気の直近の「山」は07年12月と認定。日欧は2四半期連続のマイナス成長で景気後退入りを確認済みで世界同時不況の様相。
- ◇愛知県豊田市、トヨタショックで法人市民税収9割減 (12月8日)
トヨタ自動車を中心に市内の企業業績が急激に悪化、09年度は08年度当初予算比で400億円近い減収となる見通し。
- ◇世界銀行の2009年世界経済見通し、成長率0%台 (12月9日)
09年の実質成長率は0.9%に低下と予測。日米欧は揃ってマイナス成長となるほか、中国、インドも減速の見通し。
- ◇2009年度与党税制改正大綱を決定 (12月12日)
一定条件での土地譲渡益に非課税枠を設定、住宅ローン減税の拡充、証券優遇税制の延長(11年まで)など、短期集中での景気刺激に重点。中長期的には、持続可能な財政構造確立をめざし、消費税増税、国際的に高い法人税の引き下げ、所得税の最高税率引き上げ、納税者番号制度の導入準備などの方針を明記した。
- ◇大企業製造業の景況感、大幅に悪化～日銀短観 (12月15日)
- ◇米FFレート、年0.0～0.25%に大幅引き下げ (12月16日)
外為市場ではドル売りが進行、円相場は一時88円台まで上昇。
- ◇OPEC、1月から日量220万バレルの原油減産決定 (12月17日)
減産発表後のNY原油は約4年ぶりに1バレル=40ドルを割り込んだ。ドルの代替通貨として金は堅調だが、大豆は7月最高値から5割、自動車関連需要の大きい天然ゴム、プラチナは7割前後の下落。17日のNY市場で12年ぶりに金価格がプラチナ価格を上回った。
- ◇日銀、政策金利を年0.3%から0.1%に引き下げ (12月19日)
- ◇09年度政府予算案を閣議決定、一般歳出51億円 (12月24日)
基礎年金の国庫負担引き上げで社会保障費が大幅増。歳入は景気後退による税収減が見込まれ、33兆円の新規国債発行で補うほか、財政投融资特別会計の「埋蔵金」を流用。財政収支は悪化。
- ◇09年3月迄に非正規労働者8万5千人が失職～厚労省 (12月26日)
失業率、求人倍率も悪化、雇用環境は急激に厳しさを増している。

●金利データ

		2009年1月5日現在	前月比
政策金利(無担保コール翌日物)		0.10	▲0.20
公定歩合		0.30	▲0.20
短期プライムレート(都銀 最頻値)		1.675	→
長期プライムレート(みずほコーポレート銀)		2.40	→

<主要国 政策金利>

米国FFレート(誘導目標値)	0.0~0.25	▲0.75~1.0
EU/ECB主要政策金利	2.50	▲0.75

◆貯蓄

*年平均利回り

三菱東京UFJ銀行	普通預金		0.040	▲0.08
	貯蓄預金(10万円以上)		0.070	▲0.08
	スーパー定期預金 (300万円未満)	1ヵ月	0.150	→
		1年	0.250	→
		3年	0.250	▲0.05
外貨定期 1年	米ドル	0.310	▲0.70	
	ユーロ	1.210	▲0.87	
	豪ドル	2.430	▲0.47	
ゆうちょ銀行	通常貯金		0.05	▲0.08
	定額貯金	3年以上	0.300	→

野村証券	MMF(運用実績)		* 0.469	→
	外貨建てMMF (運用実績)	米ドル	* 0.460	→
		ユーロ	* 1.749	→
		豪ドル	* 3.581	→

国債	個人向け国債(1月)	固定・5年	0.80	▲0.19
	募集終了 次回は3月予定	変動・10年	0.58	▲0.11
		利付国債10年(297回/12月発行)	1.4	▲0.10

◆ローン

フラット35は金利に保証料相当分を含む

住宅ローン (三菱東京UFJ銀行)	変動型	2.875	→	
		固定・5年	3.450	▲0.10
		固定・10年	3.850	→
	フラット35	保証型	3.390	+0.31
買取型		3.230	→	
フラット35(買取型)	21年以上	2.880~3.830	→	
		最多 3.130	→	
	※住宅金融支援機構 発表	20年以下	2.640~3.590	→
最多 2.890			→	

12月初めの豪・英・欧州等の追加利下げに続き、16日には米FRBが市場予想を上回るゼロ金利政策に踏み切った。急激な円高に押され日銀もついに金融緩和に舵を切り、つれて普通預金金利も下がった。1月初旬には短プラ引き下げの予定で、今後は変動型住宅ローン金利引き下げの可能性も。景気後退でデフレ懸念が強まる中、各国の長期金利も急速に低下。

コラム～★FPのひとりごと★～

世界一強い通貨



2008年、100年に1度と言われる金融危機が米国発で全世界に広がりました。平成21年の正月の新聞も「この金融危機、そしてそれに続く実体経済の危機をどう乗り越えるか、乗り越えられるか」の話題で満ち溢れている感があります。ロシア7割、中国6割、日本4割、米国3割5分と2008年、世界的に株価が下落しました。米国が風邪をひくと、日本が肺炎になるとよく言われましたが、今回の米国発バブル崩壊では全世界が米国発インフルエンザにかかってしまったようです。世界経済がいかにグローバル化しているかがよくわかります。

今回の特徴は全世界が経済的な影響を受け、株式も世界的に暴落していますが、為替については益々強くなっている国があります。それが日本です。もちろん為替は比較の世界ですから、何処かの国の通貨に対し何処かの国の通貨が高くなったり安くなったりするわけで、全世界が全て同時に下落するわけではないわけです。通常円高というと、それは米ドルに対してですが、今回日本円は米ドルに対してだけでなく、ユーロ、ポンド、豪ドルをはじめ、中国元、ロシアルーブル、タイバーツなど全世界の通貨に対して上昇しています。それもものすごい勢いで。2008年の数字を見ると、オーストラリアドルは日本円に対して110円近辺から55円ほどと、半額50%の下落、ニュージーランドドルは90円から50円ほど、これも40%強の下落、ユーロは170円から110円と3分の2へ、米ドルをはじめとするその他の通貨も2割以上上げています。

日本円がなぜ強いのか、それはたまたまそうなっただけのことと私は思っています。日本は1990年からのバブル崩壊で「失われた10年」あるいは「失われた15年」を経験し、日本一人がおかしくなり、もう日本はだめ、「英国病が治り、今度は日本病」など、「ジャパン アズ ナンバーワン」の黄金時代から一転、その経済力とともに国際的な地位も低下させてきました。その間、日本は公的資金の金融機関への投入、不良債権の買い取り、構造改革の実施、減税をはじめとする企業支援を続けてきました。辛い10年、15年を経て、金融機関も一般企業も体質が強化され、利益体質になってきたわけです。

そこへ今回の世界的金融危機が起こりました。金融機関の貸しすぎ、それによる不良債権の発生、そして金融機関の崩壊、日本のバブルと同じです。ただ違いはその規模で、世界中で崩壊が起こったわけです。世界が苦しむ中、もちろん日本もその影響を受け、株価の下落、実経済への影響などが起こっていますが、他の主要国に比べて金融機関がしっかりしていると言うか、今までのバブル崩壊を脱出するための努力がそのまま他国に比べて安定性という形で出ています。そのため緊急時の「避難場所としての円」現象が発生しました。

それではこのまま「円高が続くのか？」私は続かないと思っています。短期的にはまだ円高が続くかもしれませんが、BRICsをはじめとする新興国の成長はこれからも続くでしょう、米ドルに対しては長期的にも強みはあると思いますが、その他の国々の経済成長は日本を必ず上回りますので、長期的に円は安くなってきます。時には今回の様な異常事態が起こるでしょう。しかし投資の世界には「異常は正常に必ず戻る」という大不文律があります。私は今回の円高は「異常事態」と考えています。長期的には正常に戻る、つまり円安に戻るとすれば、今回はチャンスです。長期的な海外投資のチャンスだと思っています。もちろんこれは中・長期的な視点ですので、3か月の外貨預金といったものには適用しません。また対象から米国は除外です。

(株)FPプラネット 代表取締役
井畑 敏

● FPコバさんの編集後記

最近2回FPレターの発行を身内の葬儀が続き、休刊致しました。毎月お送りしておりますので、お詫び申し上げます。さて年末・年末に中国の上海に行って参りました。私は遠いところには良く行っておりますが、中国は観光でチョコット深圳に入った程度で中国の発展を見るのは今回が初めてでした。上海の人口は1800万人。1990前半から始まった改革開放政策により、10%を超える経済成長を続けてきましたが、最近の金融危機により、ブレーキが掛かって来ました。しかし、それでも7-8%の成長が期待されています。来年の5月には世界万博が予定されていて、あちこち道路は工事中。古い民家も目に着くところは取り壊し、高層マンション化工事です。どこに行っても人が溢れかえっている、そんな印象です。一人っ子政策なのに、若い人が多いのも特徴でした。落ち目のBRICsの中でも、やはり世界を牽引する中国の威力を感じてきました。(小林治行記)